

# リメディアル教育, 4 学期制導入の問題点

## 非常勤講師と夏休みの区切り

### E 部会報告

理学研究科教授 徳永 正晴

#### 1. はじめに

レベル別教育, 入試, 完全単位制, 4 学期制, という課題を与えられたが, は大きな問題なので, との関連においてのみ議論した。 , を検討しているなかで, はまだまだ遠い問題であることがわかり, 議論はしなかった。

本学は平成7年度より, 学部一貫教育になったので, 以下の問題に関してはいずれも関係する学部・系の判断が必要である。以下の議論で最後につけた の印は, 関係学部・系で結論を出す, 責任部局の了承を含めて全学教育委員会で結論を出す, の意味を表す。ここで議論することは主にシステムも問題なので, 各学部が導入に価値が認めらば, 平成10年度から導入すべきである。

#### 2. レベル別教育

入学学生の学力レベルが異なってきたので, 意欲のある学生に対する上級コースや, 何らかの理由で入学までに全学教育を受けるに十分な教育を受ける機会のなかった学生に対する初等クラスを開設することが必要である。後者は次のリメディアル教育(補習教育)と繋がる。

議論:

1. 本学は学部・系別学生編成になったので, 将来の専門教育での必要性を考慮して入試科目を選

定してある筈である。

2. 各クラスでは当該教科の入試での選択・高校での履修(レベル)を考慮して授業がされるようになったので, 補習教育は原理的には必要はないはずである。

3. しかしそれでもなおレベル別教育の実行が望ましいならば, 以下のことが考えられる。

(1) 上級クラスの開設を制度的に可能にするよう, 時間割( : 全学教育委員会)と, 単位認定( : 各学部・系)問題を検討する。

(2) 理系科目の時間割は, 学部・系毎に同じ時間帯に開講されるので, もし当該学部・系が希望するならレベル別の学生編成をすることは可能である。

(3) 語学, 特に英語はクラスを再編成した新しい教育体制になった。レベル別等の種々の体制は技術的には可能である。

4. 入試で特定の科目の選択を課さず, しかもその科目が必修とされる系の学生の教育

時間割を工夫すれば教官の負担増なしで可能である(今年度の医, 歯, 獣医の物理学の例がある)。

提案 各学部・系は以下の問題点を検討されたい:

(1) レベル別クラス編成を希望するのか。

(2) 異なる学部・系にまたがるクラスをつくる場合はシラバスの調整。

(4) 上級クラスでの履修を奨励するのか。

(5) 全体の問題としてコマ数増を招く希望をどう

処理するか。

提案 全学教育委員会は以下の問題点を検討されたい:

- (1) 時間割編成および担当教官の了承。
- (2) 全体の問題としてコマ数増を招く希望をどう処理するか。

### 3. リメディアル教育(補習教育)

大学入学までに異なる過程を経る学生の種類が増えてきた。リメディアル教育とは、全学教育を受ける準備のための教育コースを意味する。そのためには別に教官が必要となる。これは夏期講座、4学期制の導入とも関連する。他大学では既に多くの実行例がある。

対象: 職業高校卒業者, 帰国子女(中国引揚者等子女を含む), 留学生。

科目: 職業高校で開設されていないか, あるいはきわめて開設時間数の少ない普通教科(数学, 英語, 物理, 化学)

提案 各学部・系は以下の問題点を検討されたい:

- (1) 補習教育を単位とするかどうか。
- (2) 単位とするのならどこに当てはめるか。逆に職業高校や他の過程で取得した専門の単位を大学で単位取得上特別扱いをするのか。そうしないと普通コースの学生に比較して時間的に不利。
- (3) 例えば: 英語のあるレベルを取得することを北海道大学の卒業要件とするか。
- (4) 実行するとして: 現在の制度では当面は各学部が少人数教育でカバーする。

提案 全学教育委員会は以下の問題点を検討されたい:

- (1) 補習教育を単位とするかどうか。
- (2) 単位とするのならどこに当てはめるか。逆に職業高校や他の過程で取得した専門の単位を大学

で単位取得上特別扱いをするのか。そうしないと普通コースの学生に比較して時間的に不利。

(3) 例えば: 英語のあるレベルを取得することを北海道大学の卒業要件とするか。

(4) 実行するとして: 現在の制度では

- a. 時間割との関係 - 当面は共通教育の帯に入れる。
- b. 当面は各学部が少人数教育でカバーする。

(5) このコースの開講には教官の負担コマ数増が必要となる。但し, 予算は別に請求できる可能性がある(非常勤講師の枠)。

### 4. 4学期制または週当たり複数回授業

1週に15-20の異なる科目の履修をする現在のシステムは大いに改善の余地がある。しかし殆どの日本の大学で4学期制が行われていないことから判るように<sup>(注1)</sup>, その実施には, 4月新学学期制を含めたシステムの大きな変更を伴うので, 慎重な調査と実行のための調整が必要である。科目によっては, 外国の大学のように50分×週2回又は3回(これは3学期制の場合)の方が教育効果が大きいことは明らかなので, 全学の協力を得て, なんとか週当たりの履修科目数の削減を実施すべきである。

4学期制又は週当たり複数回授業の利点

(1) 学生の教育効果のある科目

科目としては, レベル別教育やリデュアル教育で挙げられるもの, 大学で初めて始まる初習外国語, 情報処理。基礎実験は現在4期制(週当たり複数回ではない)と言える。

(2) 教官の教育・研究期間の分離のメリット

教官の方も教育専念期間と, 研究専念期間があることは, 海外出張, 野外調査, 共同利用実験所の利用等にプラス面が大きい。

(3) 週1回2時間が効果のある科目もある(体育, 演習, 実験(4時間), 教養科目)。従って当面は両者が可能な混合案を考える必要がある。

現在実行可能な試案

以下, 前期を1, 2期, 後期を3, 4期に分ける。

現在の体制で実行可能な案として, いくつかの科目を90分×2回/週とし, 1, 2期内, 3, 4期内で相互に実施時期の交換をする案はどうだろうか。

議論:

(1) 非常勤講師には通常は週2回は来ていただかず, この完全4学期制導入の最大のネックとなる。すぐ判るように4学期制が望まれる科目において非常勤講師の雇用が多い。また学部が週1回半年という講義システムだとやはり完全4学期制は不可能である。

(2) 当面は4学期制を実施したい科目について, 責任学科間の調整をして入れ替えが可能なように時間割を組む。こうすると現行通りのシステムでも, 次に触れる試験週間の問題さえ解決しておけば部分的4学期性は可能である。成績の提出(電算化)は4回に分けるか, 2回のままにするかで大した問題ではないだろう。

(3) 4学期制とすると, これまでのシステムの延長では試験週間が4回あることになる。しかし, 大学で特別に試験直前の勉強を前提とするような試験が必要なのだろうか。むしろ平日頃どれくらい自分で考えて勉強しているかを試すような試験が基本と考えると, 試験週間は特別にとらず各教官が授業の最後に試験時間をとれるよう多めに授業時間をあてておけばよいと考える。ただし, 試験週間が必要な科目にも対処できるようにする。

(4) 全学教育委員会で考えておくべきことは4学期の分け方と試験週間の取り方である。後期は従来の2月の試験週間も含めると17週で講義と試験を連続してやっていたから, 8週目終了で3, 4期を交代すればよいので問題はない。

(5) 多人数講義の試験室の問題と, 異なるクラスを同じ問題で同時に試験したい場合, 従来のシステムで授業をしたい科目等の解決のため試験週間を2, 4期末にとる必要がある。この問題は後期では最後の週(17週目)に従来型の試験週間を1週間とることで技術的に解決できる。

(6) 問題は前期にある。7月まででは15週間しかとってない。現在の制度では期末試験の2週間は8月終わりから9月にかけている。7月を早く休みにして授業の一部を9月にやる案はこの時期に学部移行を行う学部があるという問題と, 9月初旬は各学部の大学院入試と重なる(試験だけなら監督をTAに任せる等で調整可能)し, 9月の2回程度の講義が集中力を欠くマイナス面は, 学部講義で経験済みである。7月の夏季休業を遅らせても17週はとれない(8月にかかる)。一方, 今年度のように8月19日から試験があって9月はすべて休みというのも無駄がある。そもそも授業の直後を夏休みにしてから1月後に試験という制度は訂正すべきではないだろうか。

1案: 7月をもう一週延ばして16週とし, この間に試験が終えられるものは終える(授業時間中にやれるもの)ようにして, 9月初めに従来のシステムを希望する学科の試験週間を1週間程度とるといいのではないかと。6月初めの大学祭を切れ目に出来ると1年生には一番よかる。7月末のクラブ活動には障害になるが, 学業優先で考える。

2案: 但し, 学部移行の成績に2年生の結果を使わない(2年1期の成績は使えるようにできる)ともっとよい案が可能となる。7月まで14週授業をやり(7月2週目で終了), 9月後半に3週(授業を2週やってから試験)とればよい。

表9に1案, 2案を整理して示したい。今年度に当てはめたらどうなるか, をすぐ下の行に示した。

提案 各学部・系は以下の問題点を検討されたい:

(1) 現在の時間割でも部分的に上の制度を試行することを認めるか。

(2) 自分の学部・系の学生の履修科目に関して, どの教科が4学期制が望ましいかを検討し希望を出す。

提案 全学教育委員会は以下の問題点を検討されたい:

表9 4学期制の案

	1期(8週)	2期(8週)	試験週間	3期(8週)	4期(8週)	試験週間
1 案	4, 5月	6, 7月	9月	10, 11月	12, 1月	2月
	4/10-5/31	6/3-7/26	9/2-9/6	10/1-11/22	11/25-2/14	2/17-21
2 案	4, 5月	6, 7, 9月	9月	10, 11月	12, 1月	2月
	4/10-5/31	6/3-7/12, 9/2-13	9/17-20	10/1-11/22	11/25-2/14	2/17-21

(1)現在の時間割でも部分的に上の制度を試行することを認めるか。

(2)各学部・系の希望を受けて,各教科の責任部局が2期制か4期制かを決め,これまでに挙げた全ての条件を考慮して,4学期制にする学部・系を決める。

(3)全学教育委員会:リメディアル教育を含めて

上の形の4学期制が可能な時間割を決定する。

(4)夏休み中の集中講義を企画・実行するか。

注

1.筑波大学は3学期制。